

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人

寺楽寿

No.20

平成 27 年 3 月 1 日 発行



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

本覺山 妙壽寺（法華宗（本門流））

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ <http://myojyuji.or.jp>

無縁社会と寺縁 その17

昔からお寺は、人々の往き来のものであり、出会いの場でありました。また、お寺からは僧侶が檀家をお訪ねする機会も多くあったように思います。

2月初め、当山によくお参りをいただいたM夫人が急逝されました。彼女はご自身やご主人の親族の祥月命日（日も月も同じ命日）や月命日にご本堂をお参りし、御宝前へのお供えや職員へのお心遣いをいただき、墓参りして帰られるのでした。また地域のお題目のお祈りにもよく参詣されていたと伺っております。

昔はこのように神社仏閣を回られ、自らの信仰を重ねていかれる方が多かったように思われます。その行いは、過去、現在未来を供養と祈願で結ぶ尊いものでありましょう。

人と人との繋がりは、神仏の信仰をひとつの拠り所としてより深まっていくものであったことと思います。人間関係が希薄になりつつある現代社会において、M夫人のご信仰の在り様は、私共に多くの事を教えているように思われる今日この頃です。

鴉 鴿



鍋島客殿1階廊下より廊下（つつじ）を望む。本年はつつじ観賞会開催予定（別紙参照）



正隆会節分会



2月3日、正隆会主催による節分追儺式が本堂にて奉修され、諸々の厄難を払い、福を招く豆まきが寺内各所で行われました。



1月17日 当山役員会婦人会総会・新年会。初めに本堂にて法要奉修。

寺日記

てらにつき

- 12月29日 高木敏子氏インタビュー
法華宗布教誌「無上道」の本年年間特集である戦争体験として、当山檀家・高木敏子氏に当山人がインタビューを行いました。（テラス）秋号に掲載予定
- 1月13日 和田重男氏逝去
当山檀家で、本紙18号においてインタビューが掲載された風呂職人（和田製作所）の和田重男氏が91歳にてご逝去されました。義重院日温信士（喪主妻だい子さん）のご冥福をお祈りいたします。
- 1月16日 裏千家淡交会初釜式
裏千家東京道場（新宿区市谷加賀町）にて淡交会初釜式が催され、当住上人夫妻が招かれました。
- 1月17日 役員会総会・新年会
恒例の当山新年年頭法要が奉修され、鍋島客殿において1年間の活動報告の役員総会が開催され、引き続き和やかに懇親の新年会が行われました。（上記写真）
- 1月21日 隆門懇話会 尼崎大本山本興寺
門祖日隆聖人ゆかりの本興寺、本興寺、妙連寺、有清寺の御貫首祝下および宗務総長、役員が出席し、尼崎大本山本興寺を参拝し、懇親会が行われました。
- 1月22日 東京教区新年会
銀座アスター御茶ノ水賓館にて恒例の東京教区新年会が開催されました。
- 1月25日 佐藤廣次氏逝去
当山東祥苑（第一庫裏）の施工会社（廣・佐藤工務店）会長佐藤廣次氏が86歳にてご逝去されました。在りし日の故人を偲びつつ、お悔み申し上げます。
- 1月25日 真照寺ご子息婚礼
世界連邦日本仏教徒協議会事務総長・水谷栄寛師（横浜市磯子区真照寺住職）の長男隆寛師
- 2月9日 法華宗教学研究発表大会
京都大本山本興寺・本能寺文化会館5階醍醐ホールにて第28回法華宗教学研究発表大会が行われました。
- 2月13日 全日本婦人連盟修正会
港区芝公園のザ・プリンスパークタワー東京にて恒例の（公社）全日本婦人連盟修正会が開催され、清興として各宗派の婦人による御詠歌が披露されました。
- 2月22日 当山で落語独演会
当山鍋島客殿にて想像空間主催により、隅田川馬石師匠の落語独演会が開催され、演目「垂乳女」、「文七元結」の人情斬が披露されました。
- 2月9日 松本カヨ子氏逝去
当山檀家で、月詣りを欠かすことがなかった松本カヨ子氏がご逝去されました。華経院妙代信女（喪主松本秀雄氏）のご冥福をお祈りいたします。
- 2月9日 法華宗教学研究発表大会
京都大本山本興寺・本能寺文化会館5階醍醐ホールにて第28回法華宗教学研究発表大会が行われました。
- 2月13日 全日本婦人連盟修正会
港区芝公園のザ・プリンスパークタワー東京にて恒例の（公社）全日本婦人連盟修正会が開催され、清興として各宗派の婦人による御詠歌が披露されました。
- 2月22日 当山で落語独演会
当山鍋島客殿にて想像空間主催により、隅田川馬石師匠の落語独演会が開催され、演目「垂乳女」、「文七元結」の人情斬が披露されました。

予告

日春日隆日朝聖人御遠忌
駿河路・大本山光長寺団参旅行
平成 27 年 4 月 5 日(日)～ 6 日(月)

予日 5日(日) 朝、新宿西口センタービル前集合→三保の松原・日本平・久能山東照宮を見学→焼津ホテルアンピア松風閣宿泊
予定 6日(月) 大本山光長寺法要参拝→沼津港買い物→新宿駅解散

メモリアル西澤つつじ観賞会

昨年4月16日、つつじ満開の中、当山檀家世話人・西澤義光氏（西澤つつじ園当主）がご逝去されました。同氏は鍋島客殿の植栽、東祥苑（第二庫裏）前庭作庭をしてくださいました。当山は同氏の一周忌を迎えるにあたり、多くの方々につつじをご観賞いただきたく、下記により観賞会を催します。

◎4月25日(土) 26日(日) 午前10時～午後4時
◎鍋島客殿2階大広間、1階2室にて

*茶菓をご用意しております。 *事前の参加お申込みは不要です。
*当山から徒歩8分にある西澤つつじ園の地図を両日配布いたします。

妙壽寺 2015 春夏スケジュール

3月21日 春の彼岸法要
午前11時：中日合同法要 初座・動物廟法要
正午12時：歴代墓所・正隆廟法要
午後2時：中日合同法要 第二座

7月16日 孟蘭盆会施餓鬼法要
午後1時：法話
午後2時：法要

正隆会

【SHORYU-kai】
午後2時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟前法要を奉修しております。

- 3月14日(土) 勉強会「心が温くなる日蓮の言葉」拝読-23- (写経会が変更になりました)
- 4月5日(日)・6日(月) 妙壽会と併催による光長寺団参旅行(上記)
- 5月9日(土) 写経会
- 6月13日(土) 勉強会「心が温くなる日蓮の言葉」拝読-24-
- 7月11日(土) 講師勉強会(興隆学林教授 平島盛龍先生)
- 8月休講
- 9月12日(土) 写経会
- 10月10日(土) 宗祖御会式報恩唱題行
勉強会「心が温くなる日蓮の言葉」拝読-25-



当住上人の

宗務院 DIARY

- 1/9, 2/8
▶責任役員会議(内局会議)
- 2/5～2/6
▶宗門史編纂委員会
- 2/17～2/19
▶宗務院研修会(金沢)

位牌転倒対策工事

12月15日、東日本大震災で崩落転倒した祠堂位牌(約1200基)の転倒防止のための工事が完了しました。ここにご報告申し上げます。



鍋島客殿から庭を見下ろす三浦さん(左)と当住久美夫人が掲載されました



着物の季刊誌「七緒(ななお)」(ブレジデント社刊)の連載をまとめた本「お江戸(半日)さんぽ」に作家・三浦しをんさんが当山を紹介しました。着物好き11人の作家が、東京の古い街並みを散歩する楽しさと、着物の魅力を味わい深い文章でまとめた2冊です。

Scrap



着物の季刊誌「七緒(ななお)」(ブレジデント社刊)の連載をまとめた本「お江戸(半日)さんぽ」に作家・三浦しをんさんが

本堂落慶30周年記念インタビュー

渡辺(村岡)三枝子氏(筑波大学名誉教授) 後編

聞き手 三吉廣明上人(平成26年9月30日 妙壽寺会議室)

人間育成の大切さ

三吉 しかし、実際の教育現場である学校側が親御さんからの批判とかに耐えていく中で、それを単に切り取った場面だけの学校生活ではなくて、社会全体、もっと言えば、僧侶を宗門全体が育てていくことが重要であると考えます。

渡辺 私、指導者の育成が重要だと思えます。でも仏教がこれからは何と日本人の中であって、少しも役に立ち、寄り添っていきけるようにしたいと思つたときに、やはり僧侶の育成ということが大事ではないかと。そこが、校長先生の願いなのです。

三吉 私、指導者の育成が重要だと思えます。日本と外国はどう違うのかと。

渡辺 それは、中国の場合はちよつと事情が違いますが…。

三吉 ちよつと違い過ぎますね。余りに複雑過ぎてしまつて…。

渡辺 かつて日本の教育関係者が、学力が世界一となったフィンランド詣でをした状況を見たフィンランドの友人から、「天然資源に恵まれない国にとって国民こそが資源であるから、若者の教育を国の最優先課題とし、予算を充実させ、独特の教員養成体制を實行してきたことこそ参考になるはずだ」と言われました。人間の育成を重視する国の姿勢こそ日本が学ぶことと思えます。

三吉 このお話しはかつて、どこかで聞いたことがあるように思います。



本堂御宝前にて。渡辺先生と三吉当住上人

あります。私はその都鄙問答を読んでいないので、ちよつと恥ずかしかつたんですが、都鄙というのは都と田舎という意味です。

ただ、中澤道二が心学参前舎を建て、江戸の特に商人、商家の一つの道徳教育を行った。ただ儲ければいいということではなく、いかにそのことによって社会に還元したり、その中で人としてどのように生きていくかを説いています。だから、それはその時代で大変苦勞をされていたと。それがいつの間にか、今の日本の全てが経済優先ですね。

それともう一つは、当山の総代さんと私が、実際にされてきた「淘宮」(別注参照)をされ、それも私は心学の流れを汲む、ある種の精神カウンセリングのような要素があつたようです。それは多分、江戸時代からつながつている何か心を養う教えと思えます。

もう一つは、私ども既成教団から言うのはばかられるかもしれませんが、題目系の新宗教というの、一番有名なのは立正佼成会さん、霊友会さん、それから、創価学会さんもありますが、法座といわれるものがあります。

法座とは、5〜6人で寄つて、お互いに自分の悪かつたところとか、いいことを告白し合ふんです。そのことによつて、意見をもらつたり、じゃあ、こうしようとか。それで、次に会つたときにこうなつたらと、あつたか、次に会つたとき、こういうこと、ああやかつたねとやつていく。それがチェーンとなつてどんどん広まつていくというのが、新宗教のあり方のようです。ある種の、もしかしたら、自己解放をしていくカウンセリングなかもしれない。その元というのは、実は既成教団が幕末維新のときに、神道などにいろいろ宗教が出てきました。それから宗教の中でも、我々の宗派で言うところ、そういうお講形式。訪ねて行ってグループで話し合い討論することです。お檀家さんの家を訪ね、そこに信者さんたちを集めて、お経を上げて、みんなでお茶菓子を食べ、話し合いをする。多分そこところから、新宗教の法座というのは広まつていったと、私は考えています。

ですから、今言つた社会のそういう現状も含めて、日本の過去の部分も精神生活に影響していると思えます。

それから、我々の宗派の学校のある先生ですが、京都大学を出られて、サンスクリットを学ばれ、オーストリアで仏教学を学ばれました。先般、講習会の講師を務められヨーロッパの宗教・哲学教育のお話をされました。欧州は、要するに人の考え方、つまり行動規範は、根本に哲学があつて、哲学のためにやはり宗教があるということが明確にあると。

しかし日本では、いろいろな意味で曖昧ではないかと。先生は聴講者に向かつて、「お寺とか、教会所の先生方は、そういうことも踏まえて、きちんと布教してください」と話しかけられました。その辺は西洋と日本の違いですね。

その先生はヨーロッパで数年住まわれて、そういう教育の現場を非常にリアルに見てこられて、いろいろ資料を見せていただきました。ですから我々は、西洋、日本の過去の歴史、それから現状の東西の事情も含めて、どうしたらいいのかを考えていかなければいけないのです。



「江戸心学参前舎 開祖 中澤道二翁墓」と刻まれた石碑がある中澤道二の墓

て、いろいろな資料を見せていただきました。ですから我々は、西洋、日本の過去の歴史、それから現状の東西の事情も含めて、どうしたらいいのかを考えていかなければいけないのです。

渡辺 確かにそうですね。影響力は弱くなつたかに見えますが、人間行動の規範となる哲学はあり、その背景に宗教があると実感します。日本の場合土台なしで道徳を教えようとしてるのが心配です。

三吉 そうなんです。だから、偉そうな大きな話になつてしまふんですけど、それは本当に我々宗教家の責任です。やはり教育にしても、宗教にしても、頑張らなければいけないと。それは若い人たちに、これだけメニューがある、選ぶのはあなたたちなんだよということ、その怖さも含めてきちんと教育しないからです。だから医学部最高峰の慶應大学を出て、オウム真理教事件を引き起こすわけですから。

渡辺 キリスト教は信者の住民票を保存しますので、教会は街のシンボルであり、住民の存在を確認できる場、育てる場でした。クリスマス前4週間を待降節と呼び、子供はその時期に自分が取り組みたいことを神様と約束し、毎晩寝る前に振り返り、その結果をクリスマスに報告するという習慣があります。

また先祖を思いおこし、死者の日(11月2日)にお墓参りをする意味を教えるハロウィン等もその例です。自分の存在にも子育てにも信念を持っていない人が増える今だからこそ、宗教の新たな役割があると思えます。

三吉 いや本当に、お話が多岐にわたつてしまいました。

現代のお寺のあり方とは
三吉 ちよつと卑近な話になつてしまふんですが、このお寺も三百年続いてきましたが、今ご案内のように宗教を取り巻く環境が変わつてきております。葬送は、昔ながらの地域社会の中で、町会があつて、婦人会が炊き出しをして、というのは、私が住職を務めはじめた30年前は、

まだまだそういう時代でした。今は葬儀をどう考えるかという問題ももちろんありますが、劇的に変化してきている。それから、墓地とかをどうしていこうとかという問題もあつて、いろいろなことがかなり変わつてきている部分があります。そういう中で、仏教のお寺もある意味では自分たちがどういふふうか、それに対処して変わつていくかという時代に差しかかつていると思えます。

私は幸いなことに、このお寺を手伝ってくれる弟子、職員に恵まれています。一般社会でばりばり働いてきた人たちもおります。彼らを持つていくキャリアで、内向きなお寺のあり方、つまり、お檀家さんがいてくれるからいいやみたいなことでは、そういう時代じゃない。お寺の有様を発信したり、お寺はこういうふう考えているとか、こうあるべきだということも明確に持つていかなければならないと。というのを、問はず語りに彼らから私は勉強しています。

たまたまアメリカに親戚のお寺に手伝いに行つていて、やはり向こうの宗教事情も本当に変わつてきています。でも、求められているものもあるという確信はもつておられるわけですから、その辺でこれからいろいろなことをやつていきたいと思います。

その辺りは、先生はどのようにお考えですか。
渡辺 確かに生活習慣の中には宗教の習慣は残つていますが、生きる指針となつていけるのは限らないように思っています。

三吉 そうなんです。仏教ブームはあるけど、寺院離れしているという状況なんです。やはり私も東日本大震災が起きてから、我々はどう若くはないですが、僧侶同士で話し合つて、本当にあれだけの時間の中でおびただしい命を失つてしまった現実を目の当たりにしたときに、やはり命の儂さということ、我々がもつと真剣に受けとめていかなければいけない。

そういうときに、先生が先ほどおっしゃつたような、人は突然ということ、文化的、社会的になつていくのは、それだけの手間ひまがかかるというお話をしていただいたわけですね。

「やまのふり」の場について
三吉 総代さんやお檀家さんからいろいろなご意見をいただきますが、もちろん死者儀礼は大事ですが、通過儀礼としてのお寺や神社の役割の大切さですね。だから、幼稚園もまさにそんなんです。仏教系の幼稚園に行つて、花まつりをやったこと、思い出が心に残つていて、いつか、結構いらしたりするわけなんです。

かつて、ある総代さんは、今は元服ということがないから、お寺さんで元服式をやつたらどうかと。私は本当にはつとして、目からうろこだつたんです。

今は神社さんが七五三儀式を行つていますが、その後成長されて十代後半ぐらいの人たちが立ち寄れるような場であるべきかなということも思つたりもするんです。

渡辺 スマホ等で他者となつていけるようであつても実感がなくて、漠然とした不安を抱き、自信喪失になる若者は増えていきました。生きる指針を求めて誤つた道に入る者も増えていきました。

三吉 ですから、私の友人が寺子屋運動しています。寺子屋というのはつまり、お寺はそれだけのフィールドがあるから、そのフィールドを再利用をする。でも、震災で再生とか復興とか言つていけるけど、やはり心を再生、復興していかないと、今の時代はどうにもならないです。

私はアメリカのお寺に20年間通つていますが、日系人の歴史の中で、第2次世界大戦の収容所生活は、実は彼らの心のよりどころが2つあつたんです。一つは県人会。もう一つは、仏教ないしキリスト教の寺院、教会。それがコミュニティの核だつたんです。それと、日本文化です。今でもアメリカのお寺では日本の文化教室が盛んです。

渡辺 サンフランシスコの叔母様がご守りのお寺さんが日系の方々にとつてアイデンティティを確認できる場となつていて、実感しました。宗教の存在意義を改めて感じ、衝撃を受けました。

三吉 生け花とかをやつていけるんです。本来はそうなんです。そうあるべきなんです。今は、半年前から始めたお茶が大盛況です。お寺の信者さんとか、檀家さんばかりでなく、いろいろな方が出入りするんですが、お寺にとつてすごく大事なことだと思えます。そこにもまたご縁があつて、それこそがご寺の役割じゃないかと思つています。

お檀家さんに限らず、いろいろな方が出入りしてくれようというの、私の望むところだと思つていきたいと思います。

笑つてしまつたのは、亡くなったサンフランシスコの叔父が関わつていた詩吟です。詩吟の教室はアメリカに本部があつて、日本に支部があるんです。

渡辺 グローバルですね。
三吉 そういうこともあるわけですね。どちらが本家だかわからないみたいなんです。

渡辺 本当にそう思っています。確かに。
三吉 先生、今日は本当にありがとうございました。

渡辺 このたびのお招きで、これからの私の生き方を見出し出したと思います。本当に感謝申し上げます。

「やまのふり」の場について
三吉 総代さんやお檀家さんからいろいろなご意見をいただきますが、もちろん死者儀礼は大事ですが、通過儀礼としてのお寺や神社の役割の大切さですね。だから、幼稚園もまさにそんなんです。仏教系の幼稚園に行つて、花まつりをやったこと、思い出が心に残つていて、いつか、結構いらしたりするわけなんです。

かつて、ある総代さんは、今は元服ということがないから、お寺さんで元服式をやつたらどうかと。私は本当にはつとして、目からうろこだつたんです。